

## CMMIによる改善活動サービス

SEI【注】パートナーであるHSCIによるCMMIによるコンサルティングサービス流れをご紹介します。

【注】SEI：米国カーネギーメロン大学のソフトウェア工学研究所（Software Engineering Institute）

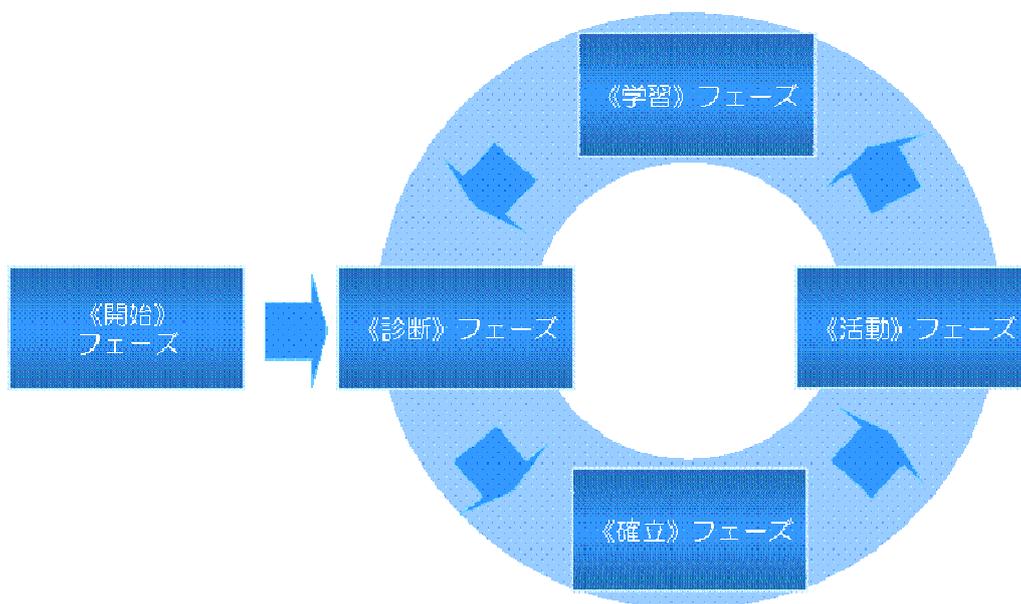
SEIは米国国防総省の支援により設立され、CMMIをはじめ、ソフトウェア・プロダクトラインエンジニアリング、ソフトウェアアーキテクチャ、セキュリティなどソフトウェア工学の最先端の研究・開発及び教育を実施しています。

SEIパートナー：CMMIのモデル、CMMIトレーニング、アプライザルに関する権利は全てSEIにあります。SEIが提供する正式なCMMIのトレーニング、アプライザルを実施するには、SEIから認定を受け、正式なパートナーとしての契約を締結したSEIパートナーのみが可能となっています。

HASHIMOTO SOFTWARE CONSULTING INTERNATIONAL INC. (HSCI) と SEI (\*) は CMMI のトレーニング及びアプライザルのサービス提供において正式な認定を受け、ビジネスパートナー契約を締結しています。



### 改善活動の進め方



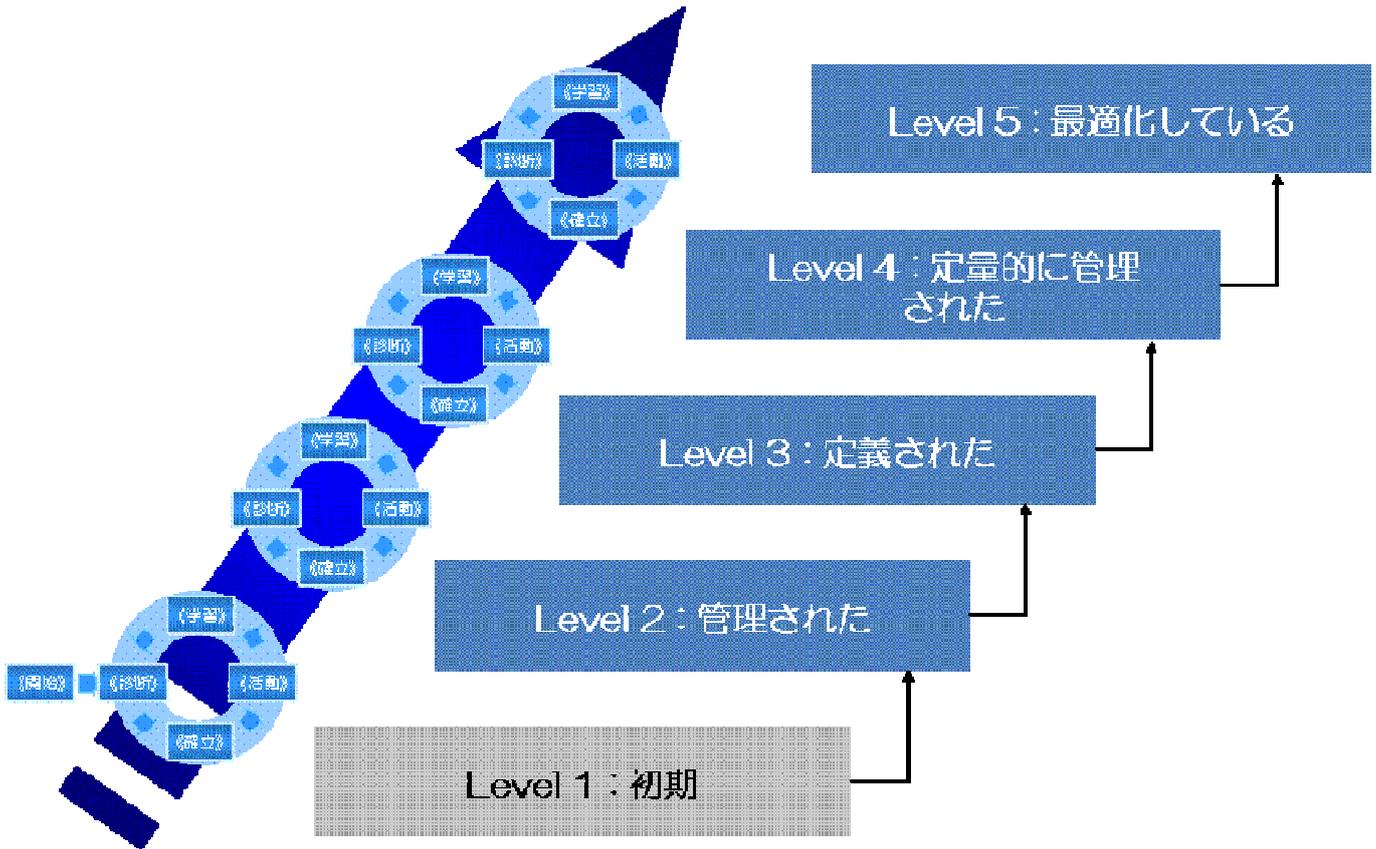
【図：SEIのIDEALモデル】

- SEIでは「IDEAL」モデル【注2】という“組織改善活動のモデル”を発表しており、CMMIを用いて成熟度を向上させて行く上で参考になる改善活動プロセスが提供されています。IDEALモデルはCMMを前提としているわけではないため、ISOやその他のモデルを利用して品質改善活動を行う場合にも利用可能です。

- IDEALモデルを用いた改善活動は『計画』、『実行』、『チェック』、『アクション』とPDCA (Plan、Do、Check、Action) を繰り返し行うことで、自組織のプロセスの弱点を発見、補強し、成熟度を向上させるステップを踏んでいきます。

【注2】 IDEAL : IDEALはSEI (米国カーネギーメロン大学ソフトウェア工学研究所) のサービスマークです。

## 改善活動とはIDEALモデルに従って活反復しながら組織の能力成熟度を向上させる



【図： IDEALモデルを利用した組織成熟度の向上】

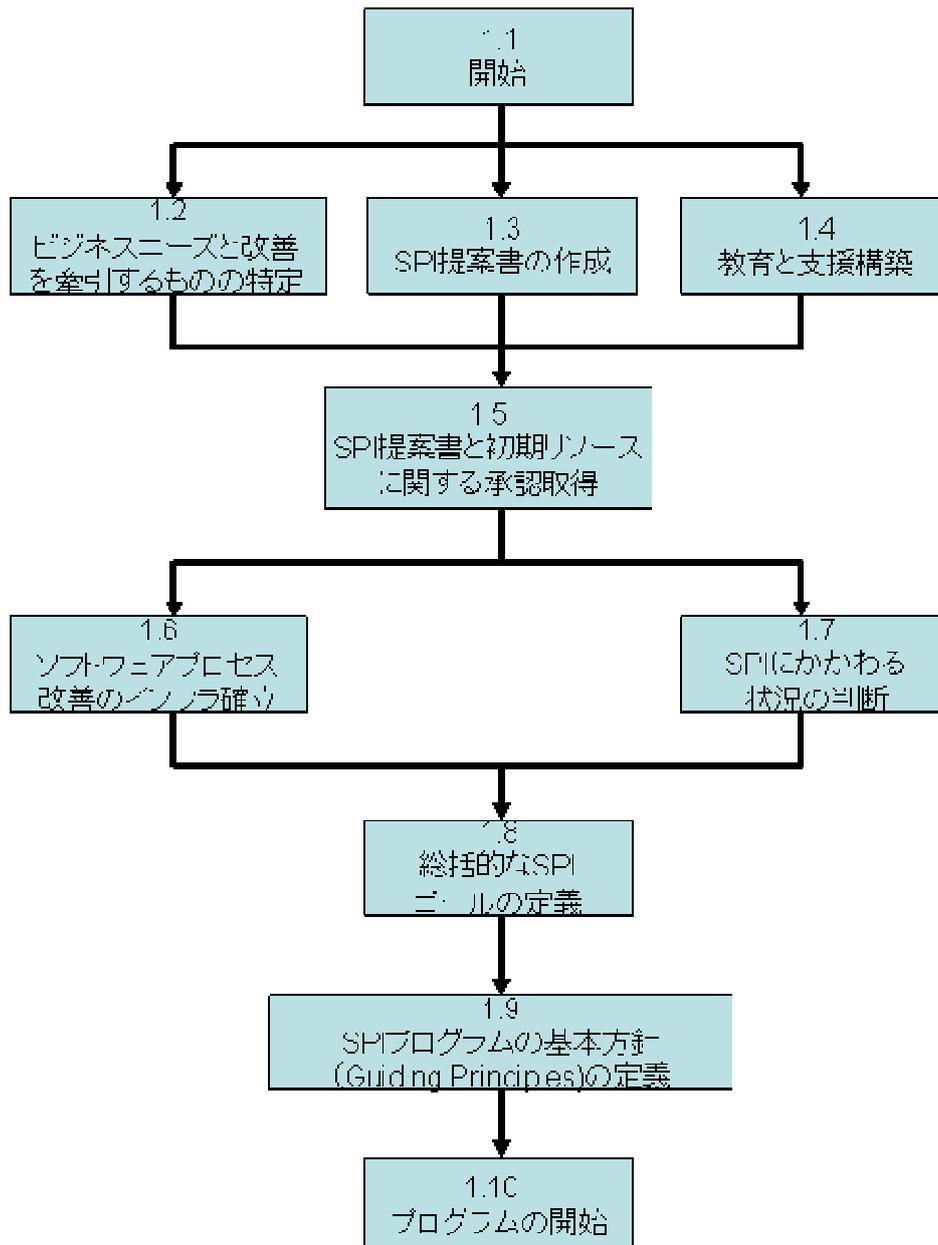
- HSCIのCMMIを活用した改善活動は「企業の文化」「開発・生産している製品の特徴」「製品開発の戦略」などを考慮し、顧客企業に最適な改善活動戦略と計画をご提案し、IDEALモデルの活動の中に反映して実施していきます。
- 国際的な改善活動のベストプラクティスであるIDEALモデルを効果的に利用しながらCMMIの改善活動を成功に導きます。

## HSCIのIDEALモデル準拠の改善活動の概要

### 開始フェーズ

- 『開始フェーズ』は「改善活動（改善活動）の動機付け」、「目標の設定」、「活動体制基盤の確立」、「改善活動の実施計画立案」等を実施します。

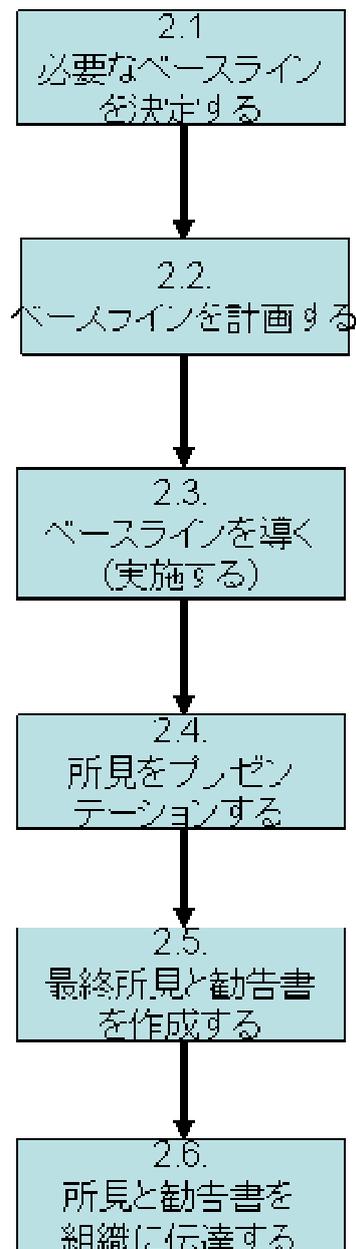
- 『開始フェーズ』は各フェーズ中最も重要なフェーズと言っても過言で無いほど、改善活動を成功させる上で重要なフェーズです。
- 改善活動に必要な初期のリソース（活動経費、人、活動体制確立、環境、etc）を計画し準備を実施します。
- 改善活動のリソースの提供や活動経費なども改善活動を実施する組織のトップがスポンサーとなり、S活動に理解を必要があります。組織のトップ層の改善への意欲や期待と改善活動の「改善活動の動機付け」、「目標の設定」、「活動体制基盤の確立」、「改善活動の実実施計画立案」を盛り込んだ最初の「改善活動計画書（提案書）」を作成します、



【図2：開始フェーズの作業プロセス】

## 診断フェーズ

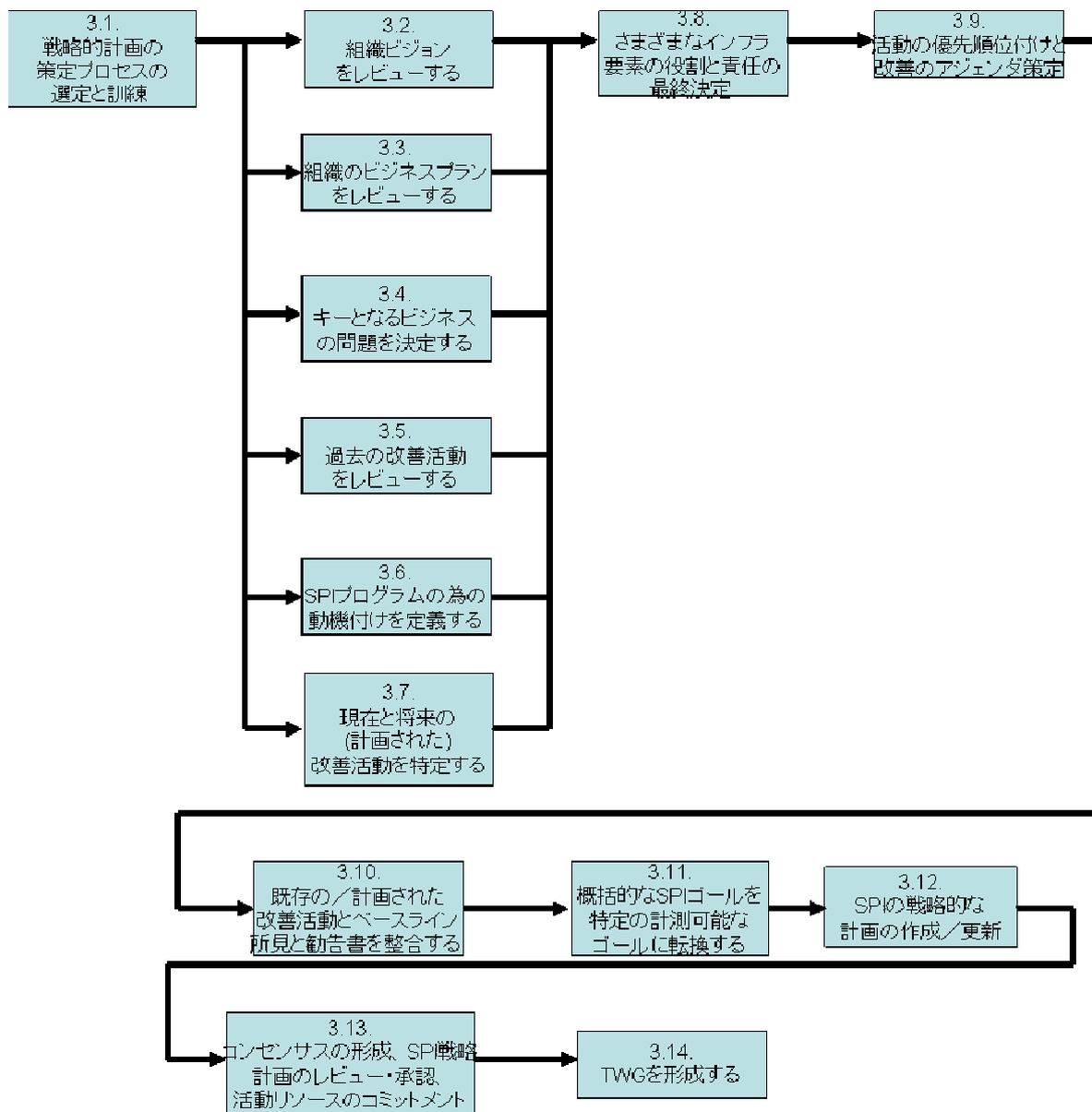
- 『診断フェーズ』は、改善活動対象に対して課題や強みを調査するアセスメントを実施し、対象組織の現状の評価を実施します。
- CMMIに照らし合わせアセスメントを実施します。アセスメントによりプロジェクトまたは組織の『強み』、『弱み』を明確にします。組織が現在用いている開発プロセスや管理プロセスの問題点及びプロセスの遵守状況を明確にします。
- 診断結果から効果的な改善計画を立案の情報を的確に抽出します。この情報は『確立』フェーズや『活動フェーズ』の情報とします。
- 『診断フェーズ』～『学習フェーズ』は、一定の活動期間後、再び診断し、再びアセスメント結果に応じて、改善計画を立案、活動していく改善活動のサイクルが繰り返されます。



【図：『診断フェーズ』のプロセスの流れ】

確立フェーズ

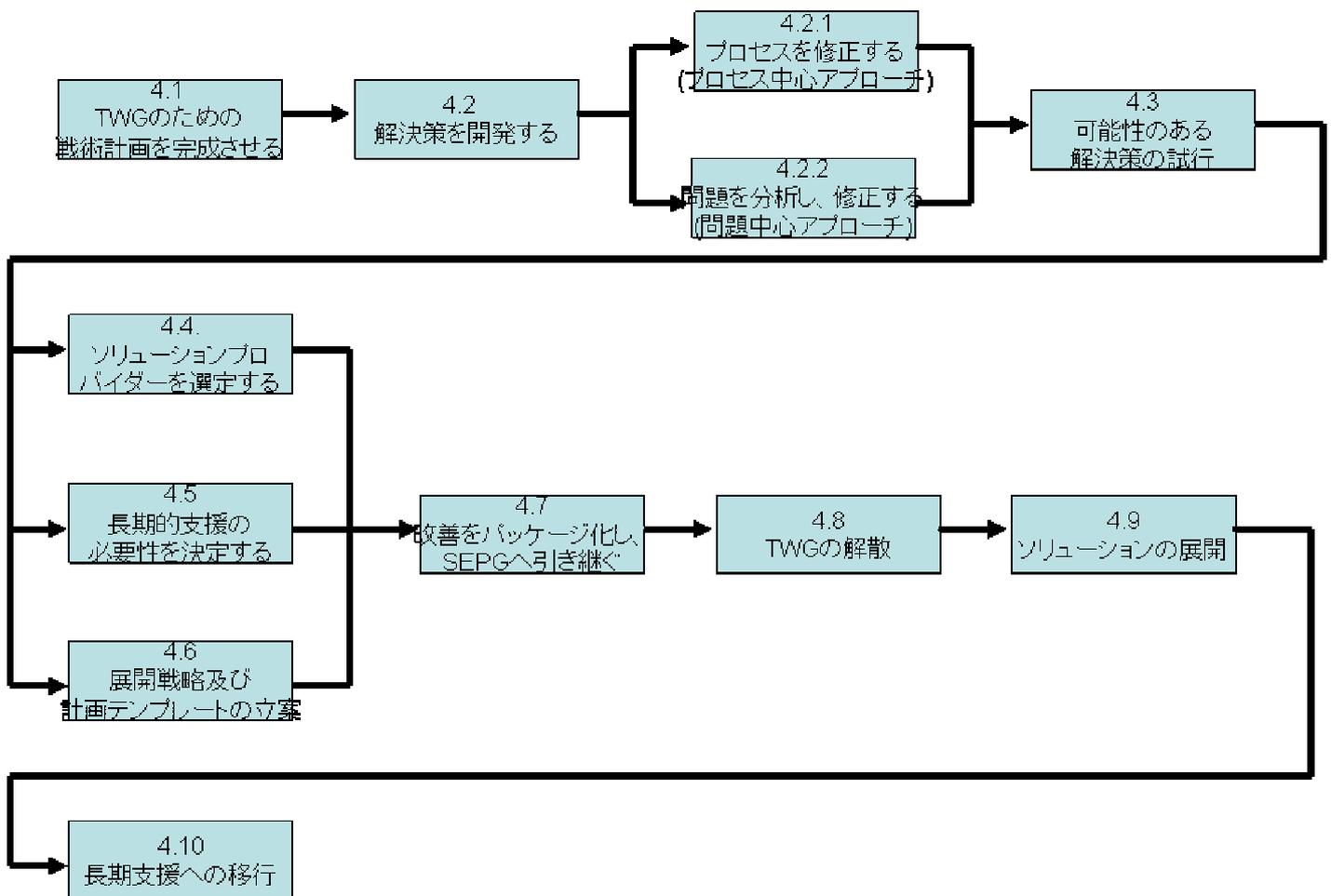
- 『確立フェーズ』は、『診断フェーズ』で得られた「強み」、「弱み」の情報から、改善活動戦略、活動の優先順位を検討し、具体的な改善計画を立案し、初期の「改善活動計画書」を具体化していきます。主に以下の作業を実施します。
- 改善活動の戦略とアプローチを選択(幾つか考えられるアプローチからどれを採用するか)を決定します。
- 検討中の改善活動プログラムが、組織のビジネス上の目標やビジョンと適切に関連しているかどうかを評価します。せっかくの改善活動の成果がビジネスの成果に連動しないなどのリスクがあります。そのため、企業、あるいは組織のビジネス上の目的、ビジョンと改善活動の連動は非常に重要になります。
- 改善活動煮に大きな影響を及ぼすと考えられる短期及び長期のビジネスの問題を検討、評価します。
- 改善活動を推し進めるビジネス上の課題、問題点が明確にされたならば次に、改善活動を優先度付けするための規準を明確にします。組織のビジネス上の目的、ビジョンを達成するための改善活動が明確になります。



【図：『確立フェーズ』のプロセスの流れ】

### 活動フェーズ

- 『活動フェーズ』は、現状のプロセスを理解・分析します。問題点や不足部分をなくし、プロセスの継続的改善サイクルの計画を作成の実施をします。
- プロセスを利用する利害関係者を特定し、彼らのニーズを理解します。
- 現状のプロセスの範囲、境界、状況を決定します。
- プロセスのあるべき姿を定義します
- 組織への導入展開の戦略及びテンプレートの開発を実施します。
- 改善活動の計画の展開を実施します。

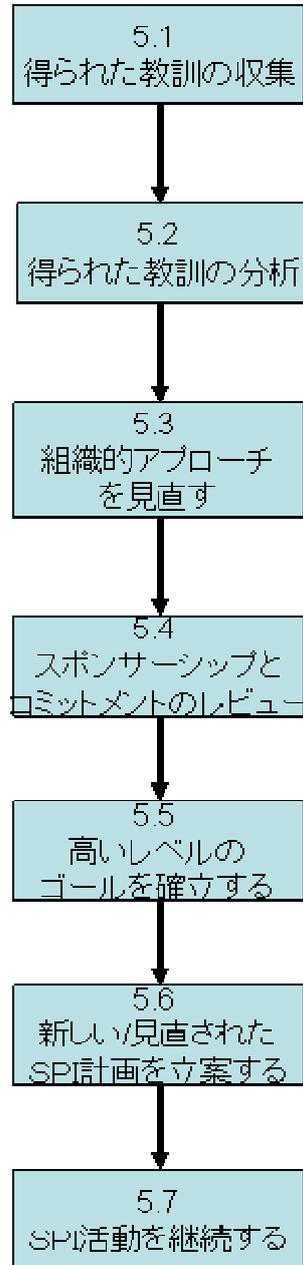


【図：『活動フェーズ』のプロセスの流れ：】

### 学習フェーズ

- 『学習フェーズ』は、IDEALモデルの1サイクル終了段階で、これまでの活動のレビューと次のサイクル（診断フェーズから）への準備作業を行います。改善活動で得られた教訓を収集、分析し、次のIDEALモデルのサイクルで行う改善活動のため利用できるように整理するのが大きな目的です。
- 改善活動のゴールを見直して、1つ高いレベルのゴールを設定します。

- 改善活動計画書を更新します。



【図：学習フェーズのプロセスの流れ】